

めんごい



東日本大震災 追悼・復興祈願式

日時:3月11日(金) 14:40~

場所:山形市役所 「千年和鐘」

問い合わせ先:山形市総務部防災対策課

電話:023-641-1212(内線216)



キャンドルナイト「追悼・復興の祈り」



日時:3月11日(金) 16:00~20:00

双子キャンドルと一緒に作りましょう。

2つ出来たうちの1つは、持ち帰れます。

17:40~キャンドル点灯

(キャンドル作りの受付は19:30まで)

場所:文翔館前広場

問い合わせ先;山形県復興・避難者支援室

電話:023-630-3100

花・はな会 3月16日(水)・4月20日(水)開催予定

時間:9:30~12:00 場所:元木公民館・研修室1

平成28年度5月以降の予定は、次号にてご案内いたします。



れんらくさき

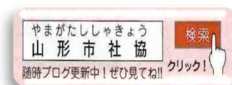
住所:山形市城西町二丁目2-22

山形市総合福祉センター2階 山形市社会福祉協議会

電話:023-645-8061(平日8:30~17:30)

福祉のまちづくり係 避難者生活支援相談員まで

メール:mengo@yamagatashishakyo.or.jp



東日本大震災 マグニチュード 9.0 震度 6強

平成 23 年 3 月 11 日、あれから 5 年が過ぎようとしています。現在、山形市内に約 450 世帯の方が避難生活を余儀なくされています。訪問時、皆さんが話して下さった当時の避難状況や、そのときの思いは、忘れることなく伝えていきたい、風化させてはいけなないと、あらためて思いました。

今回、南相馬市から避難している方に、当時の状況や思いを書いて頂きました。



我が家の避難

海岸から約 300m。原町区萱浜に住んでいる息子夫婦と 1 才の孫娘のことが心配でならなかった。地震以後は連絡もつかず見に行こうとしたが、津波で 6 号線は分断し行けなかった。

夕方 6 時ごろ「ただいま」と息子家族が帰って来た。無事な顔を見て本当にうれしかった。こんな思いはもう二度としたくない。孫娘の被爆軽減のため息子家族は北方面に避難することを決めた。寝たきりの高齢の義母と妻。そして自分の病気のこともあり避難しないと決めた。市の防災無線で区内高校の体育館の避難指示が出されたが、原発事故による避難とは一言も言われなかった。

避難という言葉が義母の耳に入り、自分で何とか外の様子を確認しようとしたのではなかったかと思う。ベッドからずり落ちて助けを求めずうずくまっていた。それから急に体調が悪化したように思う。義母は危篤状態となり、かかりつけの医院へ行ったがすでに避難して居なかった。もしもの時のことを考え消防署へ行った。その時若い署員にこちらの事情を話したところ、「病人を家において脱出しなさい」と言われた。この言葉を聞いて気持ちがふっきた。年老いた危篤状態の義母をおいて脱出できるわけがない。避難中の車中で義母に死なれると思ったが、人道的に観て誤りではなく警察の取り調べがいかに厳しくても耐えられると思った。後で思うに、この若い署員も家族があり、だれよりも早く脱出したかっただろうと思った。職務上それは出来なかったのだろう。原発から出来るだけ距離をおくことにした。

3 月 16 日 電話で友人の F 氏に避難先を依頼したところ、山形県南陽市内の 113 号線と 13 号線の交差点で会い、F 氏の知人の T 氏に案内してもらうように言われた。給油できずメーターの残量を気にしながら燃料がもつ事を祈るような気持ちで進んだ。一刻も早く部屋を暖かくして義母を休ませたかった。義母はいくらかもち直し、どこに行くのか何度も聞くので、原発が壊れたので避難していると言うと、安全だと言われていたのに、信じられないと言っていた。

「もう少しだよ」「もうすぐだよ」と励ましつづけた。T 氏と落ち合い、アパートまで案内してもらっている途中、燃料の残量警告灯が点滅し気が気ではなかった。やっと到着。義母を暖かい布団に休ませることができ安堵した。

3 月 17 日未明、義母は戦後生きぬき、波乱に満ちた人生であった。眠るように静かに 98 歳の人生を閉じた。原発事故がなければと思うと悔しい。

消防の方、警察の方、そして葬儀社の方々。初めての土地で親切にいただき感謝の念でいっぱいです。避難に際し、F 氏・T 氏・大家さんには大変お世話になり、こんなにありがたいと思ったことはなかった。避難生活もまもなく 5 年になる。息子家族も同じ山形市内で避難生活を続けている。

当時 1 才の孫娘は、4 月には小学校入学となる。避難後に生まれた男の子は 4 月幼稚園に入ります。